

<目的>

・仮置場の設置・運営について自治体、一部事務組合や広域連合、民間事業者それぞれの立場から意見を出し合い、検討することで、今後の災害廃棄物処理を通じた災害からの早期復旧を目的として開催した。

＜開催概要（オンライン）＞

回	日程	主な内容	参加者
第1回	令和6年 11月26日	話題提供①: 仮置場の設置・運営に係る事例紹介 意見交換①: 仮置場候補地の選定状況 課題抽出①: 仮置場基本情報のとりまとめ・類型化	16名
第2回	令和7年 1月23日	課題抽出②: 抽出した候補地選定に係る課題の共有 話題提供②: 道外の仮置場候補地選定事例の紹介 意見交換②: 仮置場に関する課題解決の方策 意見交換③: 仮置場設置訓練についての意見交換	14名

＜ワーキンググループメンバー＞

- ・（総合）振興局 2局 4名
- ・市町村 9自治体12名
- ・一部事務組合 1団体 1名
- ・民間事業者 1団体 1名

○ 第1回 仮置場WG

●内容

話題提供①：仮置場の設置・運営に係る事例紹介

意見交換①：仮置場候補地の選定状況

- ・各市町村の選定仮置場候補地から候補地の基本情報整理シートを作成。
- ・これに基づく候補地に対する「留意点や設置時の課題」について意見交換と気づいた点の意見交換

[illegible]

課題抽出①：仮置場基本情報のとりまとめ・類型化

- ・ 共通した課題となる項目についてとりまとめ、抽出

○ 第1回 仮置場WG

●主な課題、意見

- 共通
- 水害・津波等災害のリスク
⇒実際の災害時に使用可能か。
 - 周囲の土地との区画
⇒フェンス囲等、周囲と隔離されているか。
 - アクセス（道路幅、段差）
⇒アクセスしやすいか、段差の有無、大型車の通行が可能か。
 - 災害時の用途
⇒ヘリポート・雪捨て場等用途の競合。他部局との調整を要するか。
 - 土地の整地・調査等事前対応
⇒使用前に作業を要するか。
 - 生活環境保全対策の要否
⇒粉塵、臭気、騒音その他、周辺住民への配慮を要するか。
 - インフラ設備（電気、水道等）
⇒仮置場設置運営時に新たな資材準備を要するか。

- ・ 津波、水害リスク、整地に関する懸念、災害時の用途、生活環境保全上の対策

(総合) 振興局

- 土壌調査、生活環境保全上の対策

民間事業者

- ・ 生活保全上の対策、インフラ設備

- ・ アクセス（道路幅）

○ 第2回 仮置場WG

●内容

課題抽出②：抽出した候補地選定に係る課題の共有

区分	選定例	想定される課題例	対応例
アセス 付近の道路状況、 搬入の幅員、段 差	付近の道路状況、 搬入の幅員、段 差	付近の道路：決壊対策を要する 幅員・段差：決壊、車両支障	片面通行となる場合は誘導員による入退場 管理が必要、段差への対応資材準備
災害時 用途	広大な土地	ヘリポート、仮設住宅と使用 される場合あり競合する	危機管理部門との調整が必要 他用途での使用が終了した後使用できる場 合も想定する
災害 リスク	被害想定を予め確 定	発災後、津波・洪水による浸水 した場合、仮乗場の利用不可	災害の種類によって、複数候補地を選定

話題提供②：道外の仮置場候補地選定事例の紹介

- 環境省マニュアル（災害廃棄物処理計画策定・点検ガイドライン）の紹介
- 道外（岡山県真庭市）の仮置場候補地選定事例の紹介：優先順位づけ

【仮定調査結果の推定に当たっての項目チェック】		
項目	条件	理由
所有者	○ 所有権が個人にある（共有地、無所有地、国有地） ○ 権利が個人にある ○ 所有権と管理権が別にある ○ （所有権と管理権、土地所有権が分かれている）	○ 災害時に迅速な調査と復旧の確実性を要するため。
第一・二次災害源	○ 第一・二次災害源が明確である ○ 第一・二次災害源が不明である	○ 災害防止のため。
第一・二次災害源	○ 第一・二次災害源が不明である	○ 災害防止と復旧を同時進行で実施するため。
平時の土地利用	○ 農地、施設、海水浴場等は避けたほうがよい。	○ 危険度の低い負担が大きくなる。
恒常的で利用	○ 恒常的利用で、避難場所、ヘルパーセンター等を確保し、避難場所へ迅速に人が逃げられる。	○ 避難場所として利用されている場合は、避難時に利用できるようにする。
緊急避難レイアウト（設備）	○ 避難用、避難を確保できること。 （水浸し等） ○ 電気の確保できること。（舟着陸による停電等）	○ 災害発生時の避難の確保のため。 ○ 船から避難、裏面に避難の確保のため。
土地利用制約	○ 法的な（自然保護法、文化財保護法、土壌汚染規制等）による土地利用の制約がある	○ 許容、禁止と利用を要するため。

候補地名/住所	①発売前の留意点					②発売時の留意点	③発売時の留意点	④発売時の留意点
	立寄る場所 の近さ	所有者 の近さ	近辺の土 地利用	土壌の状況 （土質・土 層の深さ）	地質の状況 （地質・地 層の深さ）			
4公園 大字〇〇△△番地	○	○	○	○	○	2	D	—
4公園 大字××△△番地	○	○	○	○	○	7	A	○
4公園 大字〇〇△△番地	○	○	○	○	○	5	C	○
水利地 大字××△△番地	○	○	○	○	○	1	E	—
4公園 大字△△△△番地	○	○	○	○	○	6	B	—

○ 第2回 仮置場WG

● 内容

意見交換②：仮置場に関する課題解決の方策

- 第1回仮置場WGにおいて抽出した課題の解決策について検討した

区分	想定される課題例	解決策・対応例
アクセス (3団体)	付近の道路：交通渋滞 幅員・段差：渋滞、車両支障	可能であれば大型車両が通行可能な道路幅の確保、誘導員の配置、一方通行
災害時用途 (5団体)	土地利用がヘリポート、仮設住宅として使用される場合があり輻輳する	危機管理局との情報共有、調整が必要、緊急時の土地利用の事前把握・調整と実際に決める際は仮置場についても検討
災害リスク (5団体)	発災後、津波・洪水により浸水した場合の仮置場の機能低下・機能不全	予め複数候補地を選定、災害の種類・規模に応じて選定 水害は気象予警報などで事前検討は可能
インフラ設備 (5団体)	電気・水道等の確保	整備されているところを事前検討で選定 連携協定の活用
周辺との区画 (5団体)	仮置場範囲の指定と周知 生活空間との隔離	公有地にフェンス設置等仮囲いと施錠 必要資材に関しては事前の把握（リスト作成）
生活環境保全対策 (3団体)	近傍の生活住民に対する異臭・騒音問題等への対応	説明会等実施による事前対応、理解周知を図る
土地に対する事前対応 (4団体)	草刈り、整地、敷鉄板等敷設、土壌汚染対応等	土壌汚染調査（事前事後）や使用前の現地調査の実施
その他	仮置場選定 仮置場レイアウト	全ての条件を満足しない場合は優先順位をつけてより良い候補地を選定

5

○ 第2回 仮置場WG

● 内容

意見交換②：仮置場設置訓練についての意見交換

- 仮置場訓練実施時のアンケートを参考に、訓練を自前で実施する、または環境省等主催の訓練を行う場合の要望・意見交換

仮置場訓練実施時のアンケート（帯広例）

項目	意見内容
(1) 事前勉強会について	・準備不足 ・重要な内容の理解 ・情報の把握 ・時間の確保
(2) 仮置場レイアウトの検討について	・配置の重要性 ・意見交換の重要性
(3) 実施訓練の資機材について	・資機材の選定基準 ・表示や仕切りの重要性 ・事前確認の必要性
(4) 実施訓練の受付係について	・流れの確認 ・スムーズな受け入れ ・搬入者への案内
(5) 実施訓練の誘導係・受け入れ補助について	・人的資源の不足 ・周囲の把握の重要性 ・連携の必要性
(6) 振り返り・気づいたこと	・役割分担の重要性 ・災害時の不測の事態への準備 ・地域状況を考慮すること
(7) ご意見・ご要望	・準備不足の指摘 ・次回の開催希望 ・フィードバックの重要性

6

○ 第2回 仮置場WG

意見交換②：仮置場設置訓練についての意見交換

- 今後の仮置場設置訓練の実施内容や要望について意見を交換した

項目	意見内容
今年度訓練参加者の意見	・レイアウト検討はもう少し時間を確保して、参加者間で議論できればよかった ・雨風が強くなってきたなど、不測の事態が発生した場合の仮置場の運営方法の変更や対応について参加者と協議、解決策を見いだせる訓練もできればよい
訓練前後のフォロー	・事前ワークや事後ワークがあるとより理解を深めることができるのではないかと ・実地訓練を行った後に、国や訓練主催者からレイアウトや動線上の動きなどについての評価・改善点などのアドバイスが欲しい
訓練内容の見直し	・図上訓練・実地訓練にあたり、大まかな行動パターンを数パターン用意し、パターン練習をすることで、ある程度の事態に対応できるスキルが身につくのではないかと ・道内市町村災害廃棄物処理計画のレイアウトを基に訓練を行う（地域にあったレイアウトを使った方がより実践に近い） ・住民参加型（町内会役員等）の訓練を行ってほしい ・既に仮置場が設置されている状態で仮置場運用の訓練を行うのではなく、仮置場設置までの訓練を実施してほしい ・仮置場の管理運営についてのより具体的な対応（状況写真の撮り方、管理日報の作成、簡易計量器、ドローン等の利用手法、便乗ごみを無くす手法、苦情対応、施設利用条件の住民周知方法等）
その他要望	・協定締結先・連携団体との顔つなぎ ・防災訓練（全体）への参加

7